

延沢銀山

1600 年頃から約一世紀にわたり、銀山温泉を囲む山々は主に手作業で採掘され、銀は江戸（現在の東京）の幕府に送られていました。延沢銀山には、かつて 53 本の坑道がありましたが、現在公開されているのはひとつだけです。この長さ 20 メートルの坑道は、訪れる人たちに、数百年前の鉱夫の暮らしがどんなものだったかを想像する機会を与えてくれます。

この坑道は一年中涼しく、今でも壁や床の黒ずんだ部分が「焼き掘り」（文字通り焼いて掘る）という掘り方の証拠として残されています。この技法を利用して、岩を木炭で熱してから、もろくなるまで冷たい水をかけていました。すると岩は壊れやすくなり、中の銀鉱石が取り出しやすくなるのです。